

今、浦学にできること」 12/22号

浦学の方向性 ● 常に前向き、一人ひとりが何かを感じ、考え、すぐに行動する

未曾有の大震災の教訓を教育の中に活かすこと

浦和学院高校東日本大震災対策本部



頑張る仲間をみんなて応援

石巻市・(社)石巻災害復興支援協議会へ公式義援金

春の高校野球選抜大会、全校応援自粛のエネルギーと費用を大震災に傾けよう。

校訓に掲げた「克己・仁愛・共生」を、浦学生が実践しよう!!

石巻市民との交流に感謝

小沢校長2回目の石巻、亀山市長と面会



右から伊東孝浩氏、亀山紘石巻市長、小沢友紀雄理事長・校長、車谷裕通東日本大震災対策本部担当（石巻市長室）

東日本大震災のさまざまな活動を通じて交流が深まった石巻市。本校が石巻市を訪れた回数は9ヶ月で12回、また石巻市民の子どもたちを浦和学院に招待した回数は2回となっている。浦学ふぁみり～から集められた義援金は、直接被災者の方々に「その時に必要な物資の提供」を心掛けてきた。生活用水等の身近な生活用品に始まり、保育園児にはサイズの合った靴、中学生には参考書や思い出深い図書を一人ひとりからの要望を聞き取りタイムリーな時期に行ってきた。

反面さまざまな活動を通じて「本校生徒たちが石巻市民の皆さんから受けたたくさんの教育効果は計り知れない」（小沢校長）と時折々に話している。また、石巻においては、「浦和学院という一つの団体がここまで積極的な直接支援を下さることに驚いているし、数少なくなっている継続的な支援に心から感謝している。」（伊東孝浩氏 石巻専修大学同窓会長・石巻災害復興支援協議会）という双方の思いが繋がった形となった。

このたび浦和学院高校は、石巻市に対し教育活動普及を名目とした義援金100万円、(社)石巻災害復興支援協議会には復興支援活動義援金として200万円の支給を決め、12月22日小沢理事長・校長が石巻市役所を訪れ、亀山市長との面会が実現し、義援金と目録を直接手渡した。



亀山絃石巻市長（右）に義援金目録を渡し市長室にて記念撮影をする小沢友紀雄理事長・校長（左）



亀山市長は議会を控えた多忙中にも関わらず、丁寧に対応して下さり浦和学院高校の支援活動の冊子をゆっくりご覧になり「石巻の子どもたちに、こんなにたくさんの笑顔をいただいたのですね。やはり子どもは宝ですから」と浦学の活動に改めて御礼を述べられた。また「大震災は非常に悲しい出来事だったが、全国の方々に助けていただいた。中でも若者が率先してボランティア活動してくれたことに見直した部分もあり、日本の将来に光明もある。」と話され、小沢理事長・校長が日頃から校内に示している話と多く共感される部分があった。

今回の面会は、伊東孝浩氏をはじめとする「石巻浦学ふぁみり〜」の皆さんの手で実現したが、石巻へのボランティアは10万人を超えた中で、石巻市長から直々に御礼をいただけたことは本校にとっても誠に喜ばしいことである。



経理部長 富岡 慎介
 石巻災害復興支援協議会 伊藤秀樹会長

対策本部担当
 車谷 裕通

石巻専修大学同窓会
 伊東孝浩氏会長

理事長・校長
 小沢 友紀雄

どの地域よりも復旧活動の早い石巻市。ボランティア受入の「石巻モデル」の基礎を作った伊藤石巻災害復興支援協議会会長と伊東石巻専修大学同窓会会長の存在は大きい。



「笑顔・希望」—明日へ

浦和学院高校復興発展支援プロジェクト 浦和学院高等学校東日本大震災対策本部



小沢校長の石巻市訪問と同日、夜行バスで現地入りした野球部。朝食のため立ち寄った石巻専修大学にて。石巻市役所～災害復興支援協議会（石巻専修大学内）～鹿妻保育所へ精力的に動かれた小沢校長。前夜の雪も平地では溶け行動に支障はなかった。最後の訪問地、鹿妻保育所では園児たちと笑顔で遊ぶ野球部員に声をかけて下さり、22日～24日までのボランティア活動に対し激励を行った。

